

堀 田 城 跡

菊 川 市

令和2年度一級河川西方川2年災害復旧工事（法面工）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

序

堀田城跡は、菊川市西方地区に所在する中世の山城です。菊川地域と掛川地域を見通すことができる丘陵の北東端に位置し、細長い尾根を堀によって巧みに分断し、外敵の侵入を防ぐ工夫をした山城で、城の北側から東側にかけて西方川が流れる天然の要害となっています。

城が使われた年代の決め手となる遺物がほとんど出土していないため、誰が、いつ築城したのかは謎に包まれていますが、城の構造や、数少ない出土品から推測すると、15世紀後半には機能していたと考えられています。

今回の調査では、城の中核部の一部である曲輪1と、これに接続する曲輪8の一部を検出することができました。曲輪は、城を守る兵士が駐屯する平坦地のことで、曲輪の形状や、規模、建物や土星の状況を明らかにすることにより、城がどのような防御機能を持っていたのかを知ることができます。

今回の調査により、城の北東尾根にある曲輪の様相を明らかにすることができます。法面工事により、大半が記録保存となりましたが、往時の様子を知る手がかりを残すことができました。

本書が研究者のみならず、県民の皆様に幅広く活用され、地域の歴史を理解する一助になることを願います。

最後に発掘調査ならびに本書の作成にあたり地元の皆様、静岡県袋井土木事務所掛川支所、菊川市教育委員会の関係機関各位に多大な御理解と御協力をいただき、ここに心よりお礼申し上げます。また、現地作業、資料整理に関わった職員・作業員諸氏の労苦に対しても謝意を表します。

2023年1月

静岡県埋蔵文化財センター所長
深井 善一郎

例　　言

- 1 本書は静岡県菊川市西方2130-1、2121-1、1326-1に所在する堀田城跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は令和2年度一級河川西方川2年災害復旧工事（法面工）に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として静岡県袋井土木事務所の依頼を受け、静岡県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本調査の期間及び面積は以下のとおりである。
現地調査：令和3年5月～令和3年7月 面積78m² 資料調査：令和4年7月～令和5年1月
- 4 調査体制（所属等は調査当時のものである）。
令和3年度
所長 野村 浩司 次長兼総務課長 吉田 光廣 技監兼調査課長 中鉢 賢治
総務班長 島田 真紀 主任 杉村 悠真 課長代理兼調査班長 富樫 孝志
主査 井鍋 誉之
令和4年度
所長 深井 善一郎 次長兼総務課長 鈴木 良二 技監兼調査課長 中鉢 賢治
総務班長 島田 真紀 主任 杉村 悠真 課長代理兼調査班長 富樫 孝志
主査 岩本 貴
5 本書の執筆は、井鍋 誉之、岩本 貴が行い、編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。
- 6 発掘調査における業務委託は以下のとおりである。
発掘調査支援業務委託（掘削・測量等）：株式会社 沖開発
整理作業・保存処理業務委託：株式会社 イビソク
- 7 調査にあたり、以下の機関、方々から御協力、御指導を賜った。厚くお礼申し上げる。
菊川市教育委員会社会教育課、静岡県文化財課、袋井土木事務所掛川支所、神村 哲、丸杉 俊一郎、溝口 彰啓（敬称略）
- 8 本報告書に係る実測図、写真等の記録は、静岡県埋蔵文化財センターで保管している。

凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた造構などの位置を表す座標は、全て平面直角座標第VIII系を用いた国土座標、世界測地系を基準とした。
- 2 調査区の方眼設定は、上記の国土座標を基準に設定した。
- 3 図面の縮尺は、図ごとに適当な縮尺とし、それぞれにスケールを付した。
- 4 色彩に関する用語・記号は、『新版 標準土色帳 1999年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修1999)を使用した。
- 5 第2章第2節の「第2図 遺跡位置図」は、国土地理院発行1:50,000地形図「掛川」を複写し、加工・加筆した。
- 6 本報告書作成にあたり利用した参考文献及び、註釈は、巻末にまとめて掲載した。

目 次

序 例言 凡例

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と経過	
第1節 現地調査	4
第2節 資料整理	4
第4章 調査の成果	
第1節 基本土層	5
第2節 遺構	6
第5章 まとめ	9

写真図版 抄録

挿図目次

第1図 令和2年度一級河川西方川2年災害復旧工事 (法面工) 平面図	1	第5図 調査箇所位置図	7
第2図 遺跡位置図	3	第6図 調査区平・断面図	8
第3図 基本土層図	5	第7図 曲輪1・8断面図	9
第4図 堀田城跡縄張図	6	第8図 曲輪1・8平面図	10

挿表目次

第1表 周辺遺跡地名表	3	第3表 調査履歴	9
第2表 工程表	5		

写真図版目次

図版1 1 瑠璃城跡遠景（北西から）

2 調査区遠景（北西から）

図版2 1 調査前状況（北から）

2 調査区完掘状況（北から）

図版3 1 曲輪1・8調査前状況（南から）

2 曲輪1・8調査状況（南西から）

図版4 1 曲輪1・8完掘状況（北から）

2 曲輪1・8完掘状況（東から）

図版5 1 曲輪8西半部検出状況（北から）

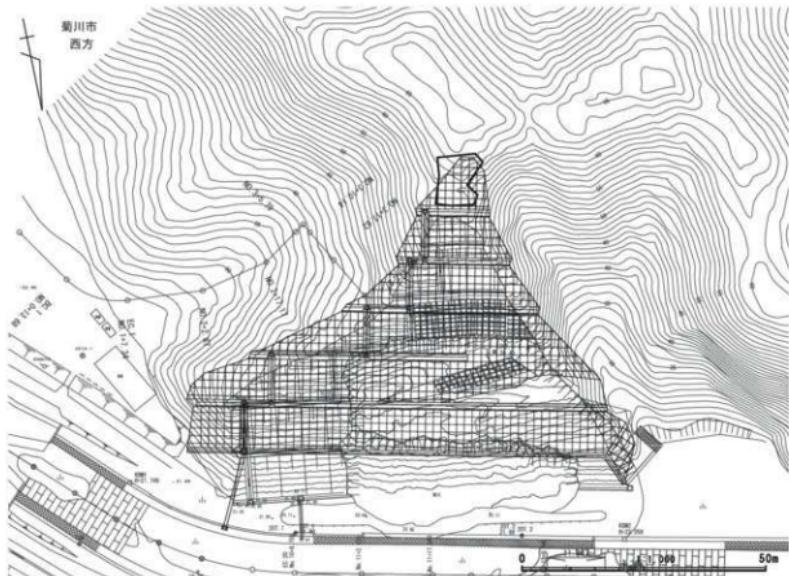
2 曲輪8東半部検出状況（北から）

第1章 調査に至る経緯

堀田城跡が所在する静岡県菊川市西方地区は、市の北西部に位置し、JR東海道本線菊川駅から約1.2km西の地域にある。この地域一帯の地質は、堀之内互層と呼ばれる砂岩と泥岩の互層からなる軟質で脆い地層である。また、西方地区の東側は西方川や菊川が形成した沖積平野が広がる。西方川は市の北部から南流し、JR東海道本線と交差するあたりで東向きを変え、蛇行しながら菊川に合流する一級河川である。西方川を含む菊川市内の河川はたびたび大雨による洪水を起こし、昭和50年代から静岡県が河川改修事業を実施してきた。

西方川の河川改修工事の計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である堀田城跡、白岩遺跡、堀田遺跡、豆尻遺跡などが分布しており、これまで断続的に記録保存のための発掘調査を実施してきた。堀田城跡に関しても河川改修工事により平成6年度に発掘調査を実施し（菊川町：1997）、さらに平成16年度には、西方川沿いの丘陵斜面の法面工事に伴い発掘調査を実施している（菊川町：2004）。

しかし、令和2年10月に静岡県を襲った台風の豪雨によりこの法面が崩落した。今回の事業はこの法面を復旧・再整備するために計画され、堀田城跡にあらたな掘削範囲を生じることとなった（第1図）。このため、令和2年度に静岡県スポーツ・文化観光部文化財課と静岡県交通基盤部の袋井土木事務所との間で埋蔵文化財の取り扱い協議を実施し、早急に記録保存のための発掘調査を実施する運びとなった。また、発掘調査は、袋井土木事務所の依頼を受け静岡県埋蔵文化財センターが実施することとなり、現地調査及び資料調査を行った。



第1図 令和2年度一級河川西方川2年災害復旧工事（法面工）平面図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

堀田城跡が所在する菊川市は、平成17年度に菊川町と小笠町が合併した都市で、人口約46,000人、面積94.19km²を有する。静岡県の西部（東遠）地域にあたり、北から南西にかけて掛川市、東は牧之原市、南東部は御前崎市に接している。市の中心部には菊川が流れ、遠州と信州を結ぶ「塩の道」、「東海道」など古来より東西南北の交通の要所として栄えてきた。

菊川は掛川市の栗ヶ岳周辺を源に発し、西方川を含む24の支川と合流しながら、牧之原台地と小笠山丘陵に挟まれた平地を蛇行しながら遠州灘に注ぐ一級河川である。

菊川流域の丘陵は、標高50～70mの低山地となっており、河川沿いには河岸段丘が発達している。段丘の基盤をなす地層のほとんどは、掛川層群から構成される。この地層は軟質で浸食されやすいため、開析作用がすすみ、浸食谷が発達している。

堀田城跡は、JR菊川駅から西へ1.2kmにあたる西方地区堀田に所在し、「城山」と呼ばれる標高70mの山頂に位置する。北に西方川が流れ、天然の要害となっている。城跡の基盤をなす地層は掛川層群の中でも軟質な堀之内互層で丘陵斜面は常に崩落の危険性が高い地形となっている。

第2節 歴史的環境

堀田城跡周辺の西方地区的遺跡分布状況は、西方川流域に縄文時代以降の遺跡が集中し、JR東海道本線より北側の地域では、横穴墓群が多くその他の遺跡は少ない傾向にある。この地で最初に集落を形成するのは、高田ヶ原遺跡で、縄文時代中期後半の竪穴建物が確認されている。低位の段丘上には、小規模ながらも縄文時代の集落が展開している。弥生時代に入ると低地に集落を形成し始め、弥生時代中期後葉の標識遺跡である白岩遺跡が挙げられ、大規模な集落で多量の土器や木製品が出土している。弥生時代後期に入ると低地、段丘上にも集落を形成し、古墳時代前期まで継続していく。近隣の堀田遺跡では、南北方向に直線的に延び、幅1.5m深さ1mのV字を呈する弥生時代の溝が検出されており、環濠となる可能性がある。

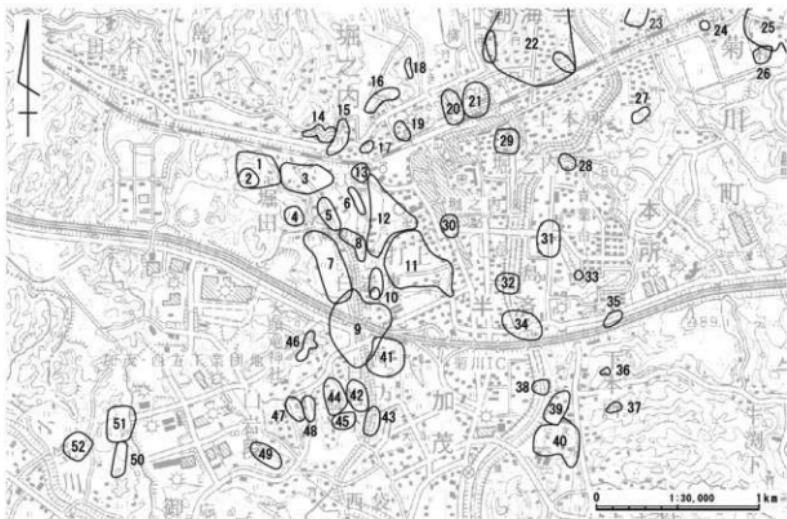
古墳時代中期の様相は不明であるが、低位の段丘上に前方後円墳である大徳寺古墳、6世紀前半の高田ヶ原1号、2号墳などが分布している。古墳時代後期以降、西方川の左岸域の丘陵斜面には大瀬ヶ谷、西宮浦、篠ヶ谷横穴群が100基以上分布しており、横穴式石室墳より横穴群が卓越する地域もある。の中でも、正法寺古墳は、堀田城の南東尾根に位置し、石室の残存状況は良好ではないが、白色凝灰岩を用いた渓門区画形の疑似両袖式石室である。遺物は出土していないが、石室形態から築造時期は7世紀初頭と考えられる。

奈良時代以降は、高田ヶ原遺跡において、総柱建物や大型の側柱建物が検出されていることから、この地域の有力な集落ととらえることができる。堀田遺跡では、平安時代末から室町時代にかけての集落が確認されている。

中世に入ると堀田東遺跡において、幅7m深さ3mの直線的な大溝が見つかっている。屋敷地を区画するものとされ、東端を示している。また、堀田遺跡でも道路状遺構、溝状遺構、掘立柱建物、井戸が検出されており、屋敷地の一角とされている。これらの調査成果から、集落は12世紀後半から13世紀と14世紀から15世紀の2時期に分けて考えることができるようである。16世紀になると、これら集落は水

田地帯へと変化するようである。

本報告の堀田城跡は、文献等に明確な記載が認められず、発掘調査の出土品も少ないため、築造年代、城主等は不明な点が多いが、平成6年度の発掘調査において15世紀後半段階の陶器が出土していることから、城が機能していた時期の一端を知ることができる。当該地域は、戦国期に今川氏、武田氏、徳川



第2図 遺跡位置図

第1表 周辺遺跡地名表

No.	遺跡名	種別	No.	遺跡名	種別	No.	遺跡名	種別
1	堀田城跡	城壁跡	19	八斗田遺跡	奈良～平安	37	白板横穴	古墳
2	正法寺古墳	古墳	20	東流砂遺跡	奈良～平安	38	新井遺跡	古墳
3	堀田遺跡	弥生～近世	21	柳坪遺跡	中世	39	四ツ枝遺跡	弥生、古墳、中世、近世
4	堀田山遺跡	古墳、中世	22	瀬海寺門前町遺跡	奈良～近世	40	下田遺跡	弥生～近世
5	櫛前遺跡	古墳～平安	23	矢田部遺跡	縄文	41	片吹遺跡	弥生～近世
6	堀田東遺跡	弥生～中世	24	法明寺古墳	古墳	42	白岩東狭間遺跡	弥生、平安
7	栗林遺跡	弥生、古墳	25	原段遺跡	縄文～古墳、中世、近世	43	白岩下遺跡	縄文～古墳
8	豆尻遺跡	弥生～奈良	26	頃段遺跡	縄文、中世	44	白岩西狭間遺跡	縄文
9	白岩遺跡	縄文～中世	27	八王子遺跡	中世	45	西福寺西遺跡	弥生、平安、中世
10	八幡遺跡	弥生	28	山田遺跡	縄文	46	井成山遺跡	縄文～弥生
11	鹿島・打上遺跡	縄文～古墳	29	前田坪遺跡	奈良、平安、中世	47	白岩段Ⅰ遺跡	縄文
12	高田ヶ原遺跡	縄文～中世	30	前田遺跡	弥生、奈良	48	白岩段Ⅱ遺跡	弥生
13	高田ヶ原古墳	古墳	31	仲島遺跡	中世	49	広原遺跡	縄文
14	山本横穴	古墳	32	樺左衛門遺跡	古墳～中世	50	喜蔵ヶ谷遺跡	弥生
15	大測ヶ谷横穴	古墳	33	鳥經塚	中世	51	竹ノ谷遺跡	弥生
16	樺ヶ谷横穴	古墳	34	島遺跡	縄文、中世、弥生、奈良、平安	52	下の坪遺跡	平安
17	西宮浦横穴	古墳	35	下所木A横穴	古墳			
18	西ヶ谷横穴	古墳	36	吉田横穴	古墳			

氏などによる戦火に見舞われており、社会動向の影響を強く受けた地域のひとつになっている。今後の調査の進展により当該地域の歴史の解明がなされることが期待される。

第3章 調査の方法と経過

第1節 現地調査

現地調査は、袋井土木事務所長の依頼を受け、静岡県埋蔵文化財センターが主体となり、令和3年5月から7月にかけて実施した。工程は下記及び、第2表のとおりである。調査は、法面工事により影響を受ける範囲のうち、城郭として人工的な手が加えられていると判断される標高61～65m付近を対象としトレンチを設定し実施した。調査面積は78m²である。

発掘調査の着手にあたり、樹木の伐採を法面工事の施工業者が実施したのち、発掘調査に着手した。調査に係る掘削作業は、すべて人力で行い、曲輪及びその関連施設の検出を行い、写真・図面等の記録を行った。

現地調査（令和3年度）

- 6月15日 現地事務所設置、資機材等の搬入
- 6月16日 拔根作業及び、遺構面把握のためのサブトレンチ掘削作業開始
- 6月21日 曲輪8の表土除去及び、遺構検出作業開始
- 6月22日 曲輪1の表土除去及び、遺構検出作業開始
- 6月23日 曲輪8の写真撮影及び、図面作成（調査完了）
- 7月13日 曲輪1の写真撮影及び、図面作成（調査完了）
- 7月15日 現地撤収完了

第2節 資料整理

資料整理は、袋井土木事務所長の依頼を受け、静岡県埋蔵文化財センターが主体となり、令和4年度に実施した。工程は下記及び、第2表のとおりである。

資料整理（令和4年度）

- 7月20日 作業着手
- 7月～11月 版組・トレース・編集
- 11月～1月 校正・報告書刊行

第2表 工程表

業務	令和3年度			令和4年度							
	5月	6月	7月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
現地調査	準備・撤収	—	—								
	懶削作業	—	—								
	測量等作業		—	—							
資料整理	整理作業			—	—						
	報告書編集				—	—	—	—	—	—	

第4章 調査の成果

第1節 基本土層

今回の発掘調査における基本土層は、以下の5層に
分けることができる（第3図）。

1層 表土

表土層である。当該地は痩せ尾根となっているため、土砂の堆積よりも流出速度が早いためか、数cm程度の堆積にとどまる。

2層 オリーブ褐色土（自然堆積土）

自然堆積土である。尾根上の平坦面及び、斜面地の一部に堆積が認められる。オリーブ褐色を呈し、風化礫を多く含む。

3層 明褐色土（流入土）

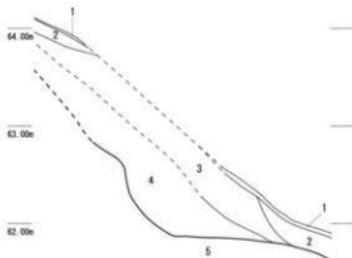
主に斜面地に堆積しているため、尾根部からの流入土と考えられる。明褐色を呈し、風化礫を多く含む。

4層 黄褐色砂礫土（流入土）

3層同様、尾根部からの流入土と考えられる。黄褐色を呈する。

5層 地山層（岩盤層）

基盤となる地層である。掛川層群の中でも軟質な堀之内互層に相当する。当該地は痩せ尾根となっていることに起因してか、曲輪等造成に係る整地層などは認められなかつたため、遺構検出は、5層上面で行っている。



第3図 基本土層図

第2節 遺構

概要

東西9.2m、南北10.0mの調査区を設定し、調査を実施した。調査対象地（第5図）は、曲輪1・8（第4図 註1）の一部に該当しており、調査の結果、同曲輪及び切岸の一部を検出した。柱穴、土壙等の遺構、遺物は検出していない。

曲輪1・切岸（第6図）

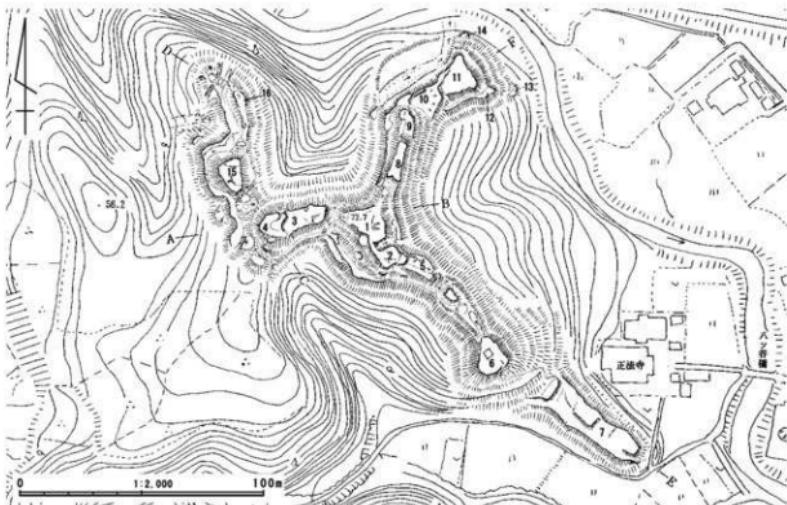
曲輪1は、東側のくの字形に折れ曲がる尾根の屈曲点で、曲輪2とともに最高所（標高66m付近）に設けられた曲輪である。曲輪2との間に堀切が構築されているが、西端を掘り残して土橋としているようである。曲輪1・2が本曲輪とされている（菊川町：1997）。

曲輪1は、東西10m、南北13m程度の平坦面である。今回、曲輪1の北端部を調査し、標高65.5m付近で東西幅1.8m、南北幅0.3mの平坦面を確認した。曲輪1北端部から北へ幅2.9m、比高差2.2mの斜面を挟んで曲輪8に接続する。平坦面と斜面の境界は明確な変換点をもって移行しているため、切岸と判断した。曲輪の西側は、調査区外に曲輪平坦面がつづくと考えられるが、東側は、地山層が幅2.4mの緩斜面を挟んで明確な変換点を持って急斜面に移行する状況が観察できることから、この急斜面を切岸と判断した。なお、切岸は、切岸に接する緩斜面の傾斜角20度に対し、50度の傾斜角を持っている。

曲輪8（第6図）

曲輪8は、本曲輪（曲輪1・2）の北側に延びる痩せ尾根に設けられた細長い曲輪である。南から北にかけて緩やかに傾斜している。

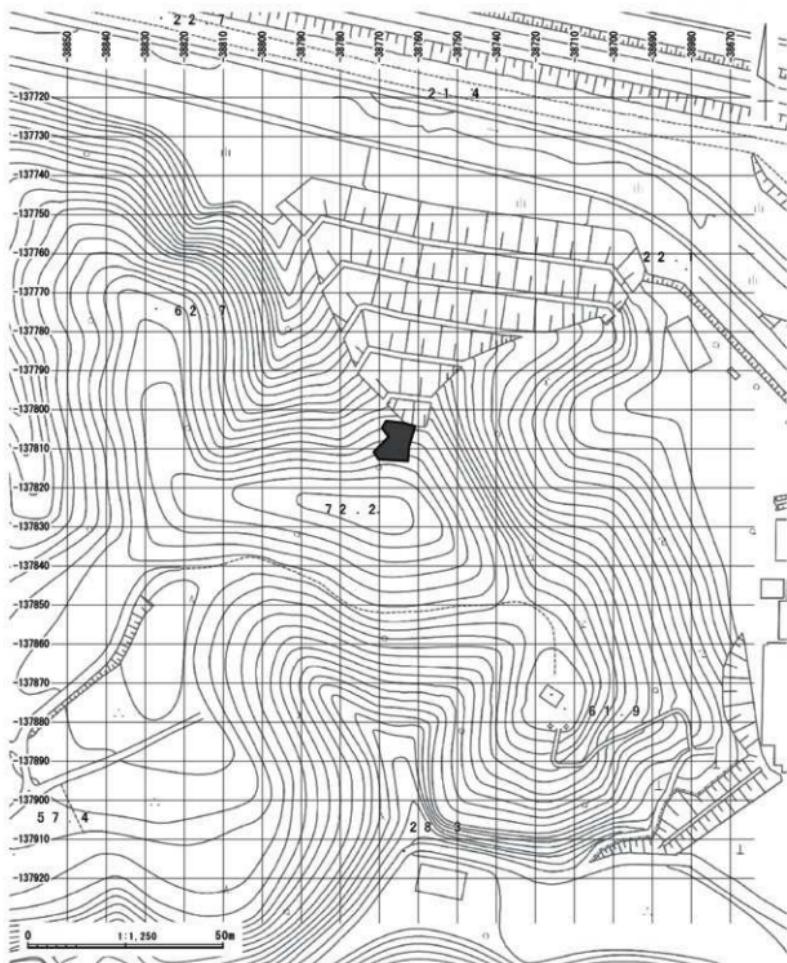
今回の調査では、曲輪8の南端部を検出した。曲輪8は、曲輪1北端部から北へ幅2.9m、比高差2.2mの斜面を挟んで検出された。平坦面は、表土下20cmで岩盤が表出し、幅4.8m、延長4.8mの規模を確



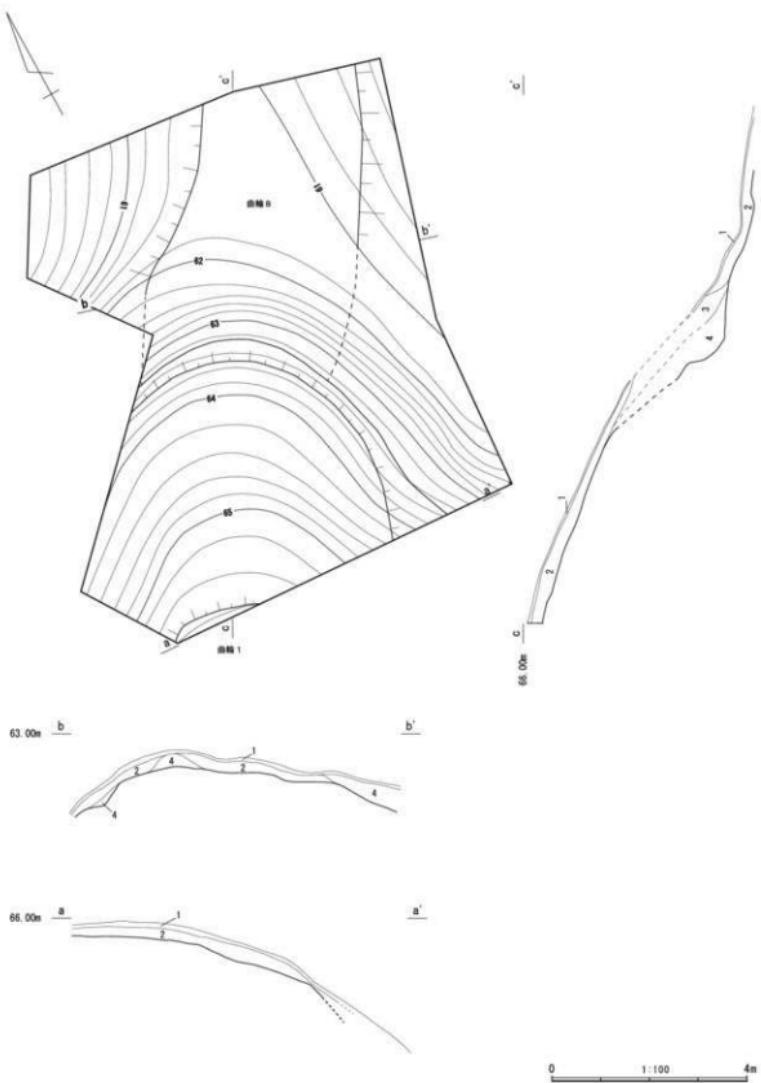
第4図 堀田城跡縦張図（菊川町：1997から引用、加筆修正）

認できた。遺物は出土していない。

なお、縄張り調査（菊川町：1997）及び、第4次調査（菊川町：2004）において、曲輪8南端部に堀切の存在が想定されていたが、今回の調査では、曲輪1から曲輪8に続く斜面地法尻に堀切に相当する掘削は認められなかった。また、曲輪南東部分は、曲輪1の急斜面下端に沿うように幅1.6mの平坦面が確認できることから、縄張図に示された犬走りにつながるものと考えられる。



第5図 調査箇所位置図（菊川市教育委員会提供地形図に加筆）



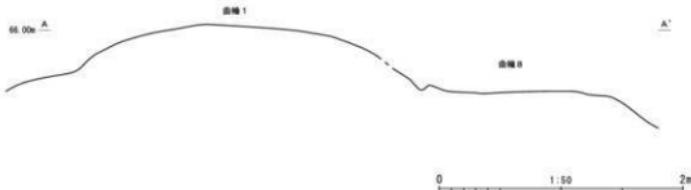
第6図 調査区平・断面図

第5章　まとめ

今回の調査は78m²と狭い範囲であったが、曲輪1と曲輪8の一部を検出することができた。

曲輪1の調査では、曲輪北端部の一角を検出した。検出した曲輪の東側の斜面には明確な変換点を持つ急斜面が認められたことから、これを切岸と判断した。曲輪8との間は急斜面となっていることが明らかとなつたことから、曲輪1から曲輪8への移動は、虎口を下り、曲輪1東側の大走りを経由していくと推測される。

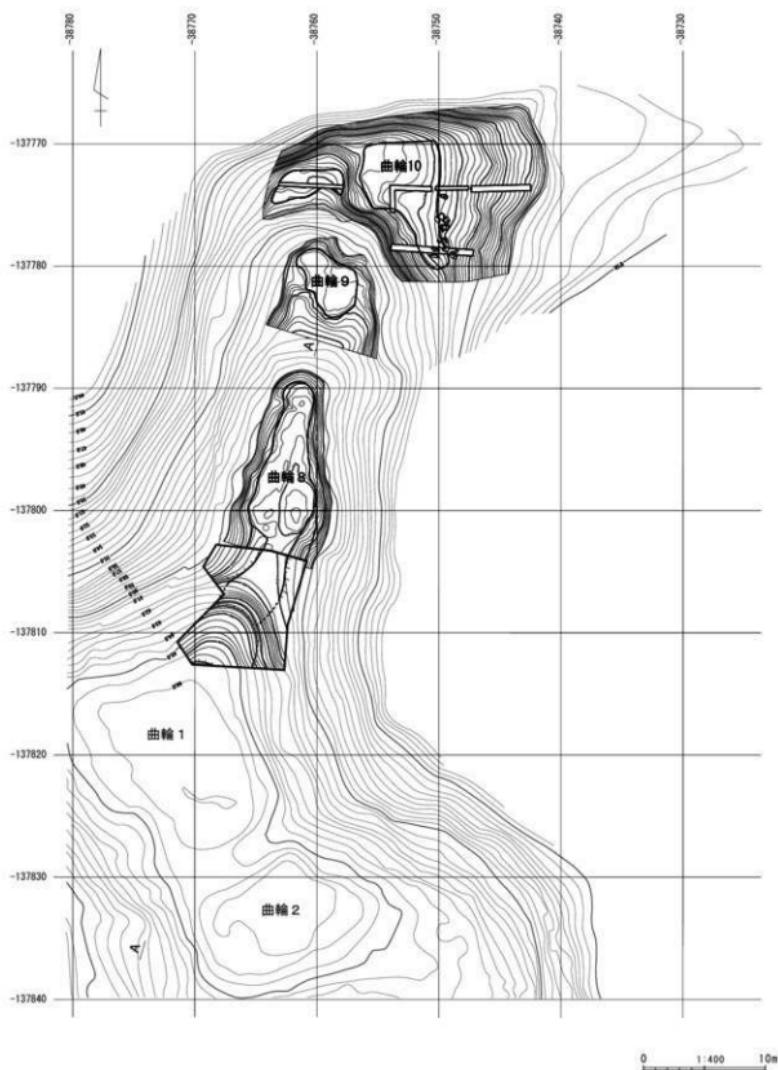
曲輪8の調査は、第4次調査区の南端部分と接する。曲輪1から続く斜面と曲輪8の平坦面を検出した結果、曲輪8の規模が、幅5.6m、長さ17.4m程度であることが判明した。なお、曲輪8南端部は「堀切状の窪みがあり」(菊川町:2004)とされ、縄張り調査でも、「本曲輪より約13m余降りると、幅約5m、深さ50cmで(曲輪8より)の堀切りが設けられており」(菊川町:1997)との所見があるが、今回の調査では、堀切は認められなかった。前述の大走りが曲輪8南端部分に接続している状況から、当時から通路として利用されていた部分が地表面で窪地状となったものが、「堀切状の窪み」と捉えられたものと考えられる。



第7図 曲輪1・8断面図

第3表 調査履歴

調査次	調査年	調査原因	調査主体	成 繰	備 考
第1次調査	平成5年度	基地造成	菊川町教育委員会	曲輪7、堀切、横穴式石室1基	菊川町:1997
第2次調査	平成6年度	河川改修	菊川町教育委員会	曲輪11~14	縄張り調査、菊川町:1997
第3次調査	平成13年度	内容確認	菊川町教育委員会	測量調査及び踏査	菊川町:1997
第4次調査	平成15年度	災害復旧	菊川町教育委員会	曲輪8~10	菊川町:1998
第6次調査	令和3年度	災害復旧	静岡県埋蔵文化財センター	曲輪1、曲輪8、切岸	本報告



第8図 曲輪1・8平面図

参考文献

- 菊川町教育委員会 1991 『堀田遺跡発掘調査報告書』菊川町埋蔵文化財報告書第22集
菊川町教育委員会 1994 『堀田遺跡Ⅱ発掘調査報告書』菊川町埋蔵文化財報告書第27集
菊川町教育委員会 1994 『堀田遺跡Ⅲ発掘調査報告書』菊川町埋蔵文化財報告書第30集
菊川町教育委員会 1995 『堀田東遺跡発掘調査報告書』菊川町埋蔵文化財報告書第33集
菊川町教育委員会 1997 『堀田城跡発掘調査報告書』菊川町埋蔵文化財報告書第45集
菊川町教育委員会 2004 『堀田城跡発掘調査報告書』菊川町埋蔵文化財報告書第77集
静岡県教育委員会 1981 『静岡県の中世城館跡』静岡県文化財調査報告書第23集

註

- 1 堀田城跡は、関口宏行氏により作成された縄張り図（菊川町：1997）をもとに曲輪番号が付されているため、本報告でもこの番号を踏襲した。

写真図版

図版 1



1 畠田城跡遠景（北西から）



2 調査区遠景（北西から）

図版 2



1 調査前状況（北から）



2 調査区完掘状況（北から）

図版 3



1 曲輪1・8調査前状況（南から）



2 曲輪1・8調査状況（南西から）



1 曲輪1・8完掘状況（北から）



2 曲輪1・8完掘状況（東から）

図版 5



1 曲輪8 西半部検出状況（北から）



2 曲輪8 東半部検出状況（北から）

報 告 書 抄 錄

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第66集

堀田城跡

菊川市

令和2年度一級河川西方川2年災害復旧工事（法面工）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

令和5年1月16日発行

編集・発行 静岡県埋蔵文化財センター

〒421-3203 静岡県静岡市清水区蒲原5300-5

TEL 054-385-5500（代）

FAX 054-385-5506

印 刷 所 みどり美術印刷株式会社

〒410-0058 静岡県沼津市沼北町2丁目16番19号

TEL 055-921-1839（代）

FAX 055-924-3898